



2019年8月23日

各位

スパークス・グループ株式会社  
代表取締役社長 グループ CEO 阿部 修平  
(コード8739 東証第一部)

**「未来創生 2号ファンド」食品ピッキングロボット開発の株式会社アールティへの投資実行**  
—唐揚げなどの弁当食品の弁当箱詰め作業支援ロボット開発を支援—

スパークス・グループ株式会社（以下、スパークスと表記）は、2018年7月に設立した「未来創生 2号ファンド」が、弁当工場など食品工場向け食材ピッキングロボットを開発する株式会社アールティ（本社：東京都千代田区、代表取締役：中川友紀子。以下、RT社と表記）への投資を実行しましたので、お知らせします。RT社は今回の調達資金を活用し、人材確保や体制構築、パートナー企業とのPoCなど、先月開催されたFOOMA（国際食品工業展 2019）に展示した食品ピッキングロボット「Foodly」の量産化に向けた準備を行ないます。

■投資先企業の概要

RT社は、2005年創業で、当初は主に企業やアカデミア向けロボットの受託開発やロボット関連部品等の販売を行っていましたが、2017年にシリーズAの資金調達を行ない人と並んで弁当の盛り付けを行なう人型協働ロボットの開発を行って参りました。唐揚げなど不定形な食品をバラ積み状態から個別認識する画像認識技術、柔らかいものを把持する力制御、人、特に小柄なパートの女性と並んで作業できる安全性の確保、工場の既存ラインにそのまま据え付けられる構造などの課題を克服、7月のFOOMAにおいてその開発成果「Foodly」の展示、発表に至っております。また、同じく7月に今回のシリーズBの資金調達が完了し、人材確保や事業フォーメーション構築、パートナー企業との共同開発PoC案件など、今後の「Foodly」の量産化に向けた準備を行います。

■「未来創生（1号）ファンド」及び「未来創生 2号ファンド」の概要

未来創生（1号）ファンドはスパークスを運営者とし、トヨタ自動車株式会社、株式会社三井住友銀行を加えた3社による総額約135億円の出資により、2015年11月より運用を開始しました。最終的には、上記3社を加えた計20社からの出資を受けました。「知能化技術」「ロボティクス」「水素社会実現に資する技術」を中核技術と位置づけ、それらの分野の革新技术を持つ企業、またはプロジェクトを対象に米国、英国、イスラエル、シンガポール、日本の約50社に投資しました。2018年下半期には、既存投資領域3分野に加え、新たに「電動化」、「新素材」を投資対象とした未来創生2号ファンドの運用を開始しました。2019年7月末時点の運用資産残高は、1号と2号あわせて、1093億円となっています。

未来創生ファンドの投資実績：<https://mirai.sparx.co.jp/investment/>

■本件に関するお問い合わせ先

スパークス・グループ株式会社 広報室  
TEL：03-6711-9100 / FAX：03-6711-9101  
pr\_media@sparxgroup.com